

公表用特定物質排出抑制措置結果報告書（事業者・事業所）

事業者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	姫路市仁豊野650番地					
事業者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	社会医療法人財団聖フランシスコ会			理事長 古川正子		
事業者の主たる業種	8311 一般病院					
事業の概要	医療					
県内対象工場等の名称	姫路聖マリア病院					
県内対象工場等の温室効果ガスの合計排出量等	単位：t-CO <sub>2</sub> (CO <sub>2</sub> 換算量) (原単位：t-CO <sub>2</sub> (m <sup>3</sup> ))					
		基準年度(実績) (2013年度)	現況(実績) (2023年度)	目標年度(計画) (2030年度)		
	総排出量	3892	4526	3900		
	抑制率	—	対基準年度比 +16.3 %	対基準年度比 +0.2 %		
	原単位					
抑制率	—	—	—			
温室効果ガスの排出抑制措置の内容 (主な措置結果)			具体的な措置内容	措置の目標		
	製造設備又は事務所ビルの低炭素化		ガス焚冷温水発生機・ボイラの空気比調整	9kl/年 削減達成		
	製造設備又は事務所ビルの低炭素化		LED照明導入	8kl/年 削減達成		
	廃棄物の排出抑制・再利用		産業廃棄物 100%リサイクル	100%リサイクル達成		
社会貢献活動等	医療・看護・介護					
気候変動対策に取り組む国際的イニシアティブ等への参画状況	カーボンニュートラル宣言	CDP評価	SBT	RE100	再エネ100宣言 Re Action	WMBその他コミット

<p>原単位の公表にかかる確認について  ※ プルダウンから選択してください  (排出量のみ記載いただいている場合不要)</p>	<p>※注意事項※  【総排出量】と【原単位】を併記しますと、『原単位の設定した単位』の値(経済活動量等)が算出できます。</p> <p>例)総排出量=1,000(t-CO2)、原単位=1(t-CO2/製造品出荷額(万円))とした場合、製造品出荷額=1,000万円と判明する</p>
<p>右欄注意事項について、確認し、</p>	<p>公表について、支障はない</p> <p>【総排出量】と【原単位】を併記する場合は、原単位の設定した単位の値が明らかになっても支障のない単位で設定していただくか、【総排出量】のみ記載してください。なお、公表用様式(4号・8号)には原則として【総排出量】を記載いただきますが、やむを得ない事情がある場合は原単位のみ記載ください  ※ 公表用以外の様式には総排出量は必ず記載いただきます。</p>

↑ プルダウンで選択

市町コード	
事業所番号	201083

特定物質排出抑制措置結果報告書

兵庫県知事

様

※報告日 .....

提出者 住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地）  
兵庫県姫路市仁豊野650番地

氏名（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

社会医療法人財団 聖フランシスコ会

理事長 古川正子

担当者氏名

事務部総務課 廣納正幸

電話

079-265-5111

※工場等の名称	姫路聖マリア病院		
工場等の所在地	〒	670-0801	
	兵庫県姫路市仁豊野650番地		
業種	8311 一般病院		
燃料等の使用量	合計	2,166 kl/年(原油換算量)	
	燃料・熱	992 kl/年(原油換算量)	
	電気	5,263,117 kWh/年	
1. 特定物質排出状況	別紙のとおり		
2. 特定物質排出抑制措置の結果及び評価			
担当部署	名称	事務部総務課	
	連絡先	電話	079-265-5111
		FAX	079-265-5001
	電子メール	hironou-m@himemaria.or.jp	
備考			

別紙

1. 特定物質排出状況  
特定物質排出量

※現況 2023 年度

(二酸化炭素換算 kg-CO<sub>2</sub>)

活動区分	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	HFC	PFC	六ふっ化硫黄	三ふっ化窒素	合計
燃料の使用	1,974,635							1,974,635
他人から供給された電気の使用	2,284,193							2,284,193
他人から供給された熱の使用	0							0
燃料の燃焼の用に供する施設及び機械器具における燃料の使用		0	0					0
電気炉（製鋼用、合金鉄製造用、炭化けい素製造用）における電気の使用		0						0
セメントクリンカーの製造	0							0
生石灰の製造	0							0
ソーダ石灰ガラスの製造	0							0
その他用途での炭酸塩の使用	0							0
アンモニアの製造	0							0
炭化けい素の製造	0							0
炭化カルシウムの製造	0							0
ソーダ灰の使用	0							0
二酸化チタンの製造	0							0
エチレン等の製造	0	0						0
カーバイト法アセチレンの使用	0							0
炭素電極の電気炉における使用	0							0
鉄鋼の製造における鉱物の使用	0							0
鉄鋼の製造において生じるガスの燃焼	0							0
潤滑油の使用	0							0
溶剤の焼却	0							0
ドライアイスの製造又は使用	0							0
炭酸ガスのボンベへの封入	0							0
炭酸ガスの使用	0							0
コークスの製造		0						0
木炭の生産		0	0					0
原油の精製		0						0
都市ガスの製造又は供給		0						0
アジピン酸等化学製品の製造（アジピン酸、硝酸、カプロラクタム）			0					0
麻酔剤の使用			0					0
半導体素子等の製造			0	0	0	0	0	0
工場廃水の処理		0	0					0
下水、し尿等の処理		0	0					0
廃棄物の焼却	0	0	0					0
フロン（ブフロロメタン（HCFC-22）の製造				0				0
六フッ化フルオロカーボン（HFC）の製造				0				0
マグネシウム合金の鋳造				0		0		0
PFCの製造					0			0
六ふっ化硫黄（SF6）の製造						0		0
三ふっ化窒素（NF3）の製造							0	0
冷凍空気調和機器の製造に伴うHFCの使用				0				0
業務用冷凍空気調和機器の使用開始に伴うHFCの封入				0				0
業務用冷凍空気調和機器の整備におけるHFCの回収及び使用				0				0
冷凍空気調和機器の廃棄に伴うHFCの回収				0				0
プラスチック製造に伴う発泡剤としてのHFCの使用				0				0
噴霧器の製造におけるHFCの封入				0				0
噴霧器の使用				0				0
溶剤等の用途への使用				0				0
光電池の製造に伴うPFCの使用					0			0
鉄道事業又は軌道事業の用に供された整流器の廃棄					0			0
電気機械器具の製造及び使用の開始におけるSF6の使用						0		0
電気機械器具の使用						0		0
変圧器等電気機械器具の点検におけるSF6の回収						0		0
変圧器等電気機械器具の廃棄におけるSF6の回収						0		0
粒子加速器の使用						0		0
その他	0	0	0					0
合計	4,258,828	0	0	0	0	0	0	4,258,828

注：活動区分については、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（環境省）」に従って記載すること。

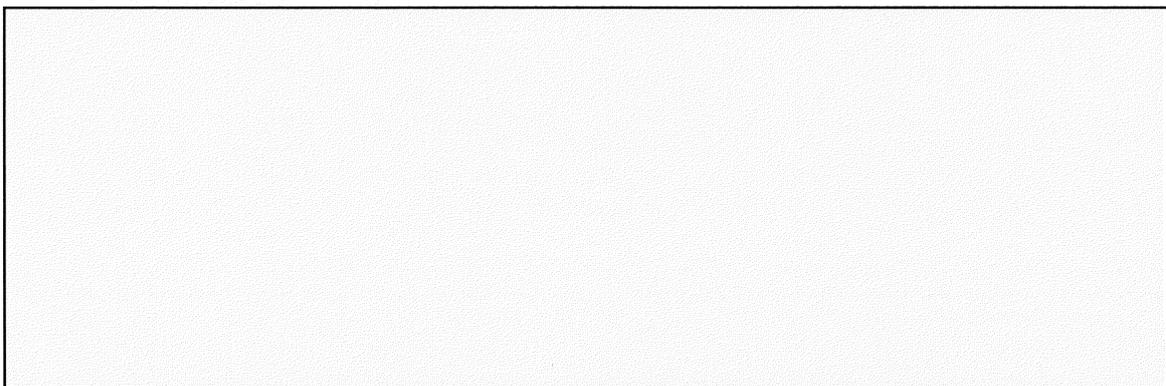
## 2. 特定物質排出抑制措置の結果及び評価

### (1) 排出抑制目標の達成状況

(二酸化炭素換算 t-CO<sub>2</sub> )

特定物質	基準年度 排出量 年度	現況 排出量 2023年度	目標2030年度	
			抑制目標量	達成率 (%)
	(a)	(b)	(c)	
二酸化炭素		4,258.8		
メタン		0.0		
一酸化二窒素		0.0		
HFC		0.0		
PFC		0.0		
六ふっ化硫黄		0.0		
三ふっ化窒素		0.0		
合計 (A)	0.0	4,258.8	0.0	

備考：達成率 (%) =  $\{(a) - (b)\} / \{(a) - (c)\} \times 100$



(2) クレジットによる削減量

(二酸化炭素換算 t-CO<sub>2</sub>)

特定物質	基準年度 排出量 年度	クレジット 償却量 2023年度	目標 (2030) 年度		参考	
			抑制目標量	達成率 (%)	償却量	単位
			(a)	(b)	(c)	
県内	J-クレジット等	再エネ電気由来				MWh
		再エネ熱由来				GJ
		省エネ由来・森林由来				t-CO <sub>2</sub>
	グリーン電力証書					MWh
	グリーン熱証書					GJ
	合計 (B)		0.0			
その他	J-クレジット等	再エネ電気由来				MWh
		再エネ熱由来				GJ
		省エネ由来・森林由来				t-CO <sub>2</sub>
	グリーン電力証書					MWh
	グリーン熱証書					GJ
	合計 (C)		0.0			
差し引き後排出量 (A) - (B) - (C)		0.0	4,258.8	0.0		

備考1：達成率 (%) = {(a) - (b)} / {(a) - (c)} × 100

備考2：事業所における削減量をクレジット化し、他の事業者に譲渡した場合は、当該クレジット相当量をマイナスの値として計上すること。

備考3：償却量が他事業所の報告と重複しないようにすること。

(3) その他、特定物質排出抑制措置の結果及び評価に関して特に報告したい事項



[別添]電力利用状況

自家発電にかかる電力利用量の状況

	発電設備	運転開始年月日	発電設備容量(kW)	燃料種	年間燃料使用量 (単位記載L、kg、Nm <sup>3</sup> 等)
例	石炭ボイラー	1980年4月1日	10,000	①一般炭 ②木質ペレット	①27,500,000kg、 ②5000kg
例	ガスタービンコー ジェネレーション設 備	2018年4月1日	1,000	都市ガス13A	1,489,200Nm <sup>3</sup> (うち発 電分774,384Nm <sup>3</sup> とし て按分)
1	ガスタービンコー ジェネレーション設 備	2017年5月1日	70	都市ガス13A	962,00Nm <sup>3</sup> の内 68,000Nm <sup>3</sup> 使用
2					
3					
4					
5					
	合計		70		

[別紙]

年度末時点の延床面積(業務系事業所のみ入力)

	事業所の延床面積	
2023年度末 (翌年3月31日)時点	53561	m <sup>2</sup>

※ 単位にご注意下さい。

※ ご提供頂いたデータは、県下の温室効果ガス排出量推計及び事業所の指導・助言のための参考データとして使用し、それ以外の目的で使用することは致しません。